

とうじしや まなんだ しやうがいりかい けんしゅう
当事者から学んだこと～障害理解の研修アンケートから～

しやうがいとうじしや こうし けんしゅうかい ばっすい
障害当事者を講師とした研修会のアンケートから抜粋

しかくしやうがいしや たいけんたん たいけん てんじ えんしゅう きづき ししよくいん
○視覚障害者の体験談、アイマスク体験、点字の演習などからの気づき（市職員）

- ・ 見えな^みい^{かた}方^きの^も気^{えら}持^たち「選^えぶ^た楽^のし^み」への^き気^く配^ぼりの^{たい}大^せ切^つさ^まを^な学^まべ^ない^こと
の^こ怖^わさ^みと^{かん}見え^{ない}から^{かん}感^じる^{たい}太^{よう}陽^{こう}光^あの^あ暖^たか^さや^{かぜ}風^けの^け気^{はい}配^{かん}が^{かん}感^じら^れて^せ世^{かい}界^{ひろ}が^{ひろ}が^つた
よ^うに^{おも}思^{てん}う^じ。点^じ字^じを^じ自^{ぶん}で^う打^つこ^うが^かん^どう^うで^じ感^じ動^じした。情^じ報^じの^じ伝^え方^{ほう}、言^{こと}葉^ば選^えび^を
お^おそ^お
教^わり^{たい}たい。
- ・ 視^{しか}覚^く障^し害^や者^がの^じ情^じ報^{ほう}を^え得^るこ^の難^むし^さは^{げん}現^じ実^つ的^{てき}に^{そう}想^{ぞう}像^じした^こが^なな^かっ^た。ま^た
先^{せん}天^{てん}性^{せい}と^{こう}後^{てん}性^{せい}視^{しか}覚^く障^し害^やの^が方^はは^こミ^じュ^ニケ^ーシ^ョン^での^り理^{かい}解^ど度^さに^さが^ある^こと^は
お^はな^しを^う伺^がう^まで^じ実^じ感^{かん}した^こは^なな^かっ^た。
- ・ 見え^みな^かい^か方^かには^ひ必^つ要^{よう}な^じ情^じ報^{ほう}を^じ「上^じ手^ずに^つた^える^ひ」必^ひ要^{よう}が^あり[、]そ^れに^は日^ひ々^びの^{れん}練^し習^じが^ひ必^つ要^{よう}
に^なる^おと^{おも}い^ます。イ^ふメ^くー^じジ^つが^か膨^{かん}ら^む伝^え方^を考^えた^いで^す。

ちやうかくしやうがいしや たいけんたん しゅわたいけん き ししよくいん
○聴覚障害者の体験談、手話体験などからの気づき（市職員）

- ・ い^みざ^し、耳^しに^し障^し害^がの^ある^か方^かと^{かい}会^わ話^をす^る機^き会^{かい}が^ある^ばあ^い場合^は、な^なか^なか^{たい}対^お応^じで^きな^い自^じ分^{ぶん}が
い^おる^おと^{おも}い^たた^め、基^き本^{ほん}的^{てき}な^し手^し話^わを^まな^だこ^のと^より^あい^て相^あ手^てに^ふ不^ふ快^{かい}の^ない^よう^に対^{たい}応^{おう}で
き^るこ^とや、相^あ手^ての^き気^{もち}持^{かん}を^か考^える^よ余^{ゆう}裕^うも^お生^おま^れる^おと^{おも}い^た
- ・ さ^しま^だま^なこ^ミュ^ニケ^ーシ^ョン^し手^{だん}段^があ^つて^も、そ^れは^お互^たい^の意^い識^しが^む向^むい^てい^ない
と^とと^も難^むし^いこ^とだ^と思^おい^た
- ・ 自^じ分^{ぶん}に^あっ^ては^まえ^のこ^とが、聴^ち覚^{かく}障^し害^がは^き気^づけ^ない^と危^き険^{けん}な^こと^もた^くさ

んあると知^しった

- ・分^わかってもらえなかつたり、時^じ間^{かん}がかか^かって迷^{めい}惑^{わく}がかか^かるからと伝^{つた}えたいことをあき
らめてしまうとい^はな^し話^きを聞^きいて悲^{かな}しくな^なった

○小^{しょう}学^{がく}校^{こう}手^て話^わ体^{たい}験^{けん}教^{きょう}室^{しつ}から（市^し内^{ない}の小^{しょう}学^{がく}校^{こう}4^{ねん}生^{せい}）

- ・僕^{ぼく}は普^ふ通^{つう}のよ^ように耳^{みみ}で聞^きいてい^いるけ^けど、聞^きこえな^ない人^{ひと}は大^{たい}変^{へん}だか^から、手^て話^わは大^{たい}切^{せつ}なん
だと思^{おも}いま^ました。手^て話^わを教^おえてく^くれ^れた皆^{みな}さん^{さん}に感^{かん}謝^{しゃ}した^たい^いです。
- ・耳^{みみ}の聞^きこえな^ない人^{ひと}は聞^きこえ^える人^{ひと}に手^て話^わで話^はな^なして^てもわ^わか^から^らな^なく^くて自^じ分^{ぶん}の言^いいた^たい^いこ^こと^とが
うま^まく伝^{つた}わ^わら^らな^ない^いか^から^らす^すご^ごく大^{たい}変^{へん}だ^だとわ^わか^かり^りま^ました。
- ・耳^{みみ}が聞^きこえ^えな^なく^くても手^て話^わを^つか^かえ^えば心^{こころ}が通^{つう}じ^あ合^あえ^えるこ^こと^とがわ^わか^かり^りま^ました。い^いろ^ろい^いろ不^ふ自^じ由^{ゆう}
なこ^こと^ともた^たく^くさ^さんあ^ある^るとわ^わか^かり^りま^ました。み^みん^んが手^て話^わを^し知^ちっ^きて^てい^いたら^ら耳^{みみ}の聞^きこえ^えな^ない
人^{ひと}も不^ふ自^じ由^{ゆう}なこ^こと^とは^おも^もい^いま^ました。

【当^{とう}事^じ者^{しゃ}か^から^ら話^はを^き聞^くこ^この^{こう}効^{けう}果^か】

- ① 機^き能^{のう}的^{てき}な障^{しょう}害^{がい}の理^り解^{かい}で^はな^なく、当^{とう}事^じ者^{しゃ}の環^{かん}境^{きやう}や状^{じやう}態^{たい}によ^よつ^つて個^こ別^{べつ}性^{せい}があ^あるこ^こと^とを^し知^ち
る
- ② 社^{しゃ}会^{かい}の中^{なか}で^の不^ふ便^{べん}さ^さや理^り解^{かい}し^ても^らえ^えな^ないこ^こと^とによ^よる悲^{かな}し^しみ^みや苦^{くる}し^しみ^みを^し知^ち
る
- ③ 自^じ分^{ぶん}が日^に常^{じやう}的^{てき}に当^あた^たり^り前^{まへ}と感^{かん}じ^じて^てい^いるこ^こと^とが障^{しょう}害^{がい}によ^より当^あた^たり^り前^{まへ}で^はな^ないこ^こと^とを^し知^ち
る

→障^{しょう}害^{がい}者^{しゃ}手^て話^わ言^{げん}語^ご等^{とう}コ^こミュ^じニ^じケ^けー^しョ^うン^じョ^う条^{じョ}例^りの理^り念^{ねん}で^ある「相^{そう}互^ごの違^{ちが}い^いの理^り解^{かい}」

研^{けん}修^{しゅう}後^ごの気^き持^{もち}の^{へん}化^かを^{こう}行^{どう}動^{どう}の^{へん}化^かに^つな^なげ^げる

○今後、こう対応したい（市職員）

・支援の仕方については間違った認識でした。障害者の方にとっては日常の不便さの中に自分の好みや自分の考えに伴った手順などがあり、何もかも効率性を求めるだけでは喜びや満足感は得られないのだと認識しました。支援する場合は相手の細かな意思をお聞きしてから行うことにします

・できる限りの情報を提供して、対象者本人が意思決定するという私たちがあたり前にしていることを当たり前にしてもらえるように接していきたいです。

・視覚障害のある方に情報説明することも、ためらわずにしたいです

・聴覚障害者のニーズに合ったコミュニケーション方法で対応したい

・聴覚障害を知ることによって、他の障害を持っている人にもさらに伝わりやすい方法がないかを今後も考えたい

・音のない世界の人には、どう思い、どう行動するのかということに思いを馳せる心の余裕も大切と感じた

・補聴器をつけている人が聞こえているとは限らないということを学んだので、今後窓口に来庁された際も返答の様子によって、筆談やジェスチャーを組み合わせるなど対応を変えていこうと思う

（小学生）

・手話をあまり覚えていなくても、口話や空書などを使って一生懸命伝えるようにして助けたいです。

・放送とかが流れて聞こえてなさそうだったら教えたいと思いました

・手話の意味を考えたりするのが楽しかったのでいろいろな手話の本を読んで、もっと

手話のことや意味を知って家の人と使ってみたいと思いました

・怖がらず、覚えた手話を使って、口で話すのと同じように話したいです。相手が気持ち

よく話せてきちんと気持ちが伝わるように精一杯頑張りたいです

【よりよいコミュニケーション環境をつくるために】

① 障害のある人とどのように自分が接してきたかを振り返る

② 何を改善する必要があるか、何から改善できるかを考える

③ 職場の同僚や友人、地域の人と情報を共有し、一緒に取り組む

④ 常に当事者の声や様子を把握し、意見交換できる関係をつくる

振り返り→検討→共有→意見交換→環境の整備を繰り返し、やさしい街づくりへ